

日吉ダム 洪水に対し防災操作を実施 保津橋地点の水防団待機水位超過時間を短縮

淀川水系桂川の水資源機構日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、台風18号の降雨により、9月17日19時から18日11時までの総雨量が92mm（ダム流域平均雨量）を記録しました。

この降雨により、ダムへの最大流入量は、毎秒278立方メートルとなりました。

この洪水に対して、日吉ダムは防災操作を実施し、最大流入時に約47%（毎秒130立方メートル）の水をダム貯水池に貯留して、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

今回の防災操作により、日吉ダムが無い場合と比べ、保津橋地点（亀岡市保津町下中島地先）の河川水位を最大約0.4メートル低減し、水防団待機水位（2.30m）の超過時間を約1時間短縮したものと想定されます。

※防災操作：大雨による出水に備えて、貯水池の空容量を確保するための操作及び、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的に貯め込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の川の水位を低減させる操作。

※水防団待機水位：河川水位によって水防団が水防活動の準備を始める目安となる水位。

※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

平成29年9月20日

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所

発表記者クラブ

京都府政記者室
南丹市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所 所長代理 佐々木
住所：京都府南丹市日吉町中神子ヶ谷68
電話：（0771）72-0171（代表）

ひよし
日吉ダム 洪水に対し防災操作を実施
ほづばし
保津橋地点の水防団待機水位超過時間を短縮

淀川水系桂川の日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、台風18号の影響により9月17日19時頃から雨が降り始め、17日20時から23時までの3時間で75mm、17日22時から23時の1時間では28mmを観測するなど、18日11時までに総雨量92mm（ダム流域平均雨量）を記録しました。

18日3時10分には、ダム流入量が最大（毎秒278立方メートル）となりました。同時刻におけるダム流下量は毎秒148立方メートルであり、流入量の約47%（毎秒130立方メートル）をダム貯水池に貯留しました。

日吉ダム防災操作の概要

	流域平均総雨量	ダムへの流入量が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダム流下量	同時刻におけるダム貯留量
日吉ダム	92mm	平成29年9月18日 3時10分	毎秒278m ³	毎秒148m ³	毎秒130m ³

今回の防災操作により、日吉ダムが無い場合と比べ、ダム下流の保津橋地点（かめおかしほづちょうしもなかじま 亀岡市保津町下中島地先）の河川水位を最大約0.4メートル低減し、水防団待機水位（2.30m）の超過時間を約1時間短縮したものと想定されます。

なお、ダムが無かった場合には、保津橋地点における河川水位は、水防団待機水位を約8時間超えていたものと想定されます。

保津橋地点の水位低減効果

保津橋地点の河川水位が最高水位となった時刻	同時刻における保津橋地点の河川水位	ダムがなかった場合の同地点の最高水位	水位低減効果
平成29年9月18日 6時20分	2.42m	2.81m	0.39m

日吉ダムでは、今後もダムの効果が最大限に発現できるよう努めて参ります。

（参考）管理開始（平成10年4月）以降の最大流入量大きい主な出水と今回の記録

順位	出水名	総雨量 [mm]	最大流入量 [m ³ /s]	最大流入時の ダム流下量[m ³ /s]	最大流入時の 貯留量[m ³ /s]
1	平成25年 9月 台風18号	345	1,694	148	1,546
2	平成26年 8月 前線	214	1,291	42	1,249
3	平成26年 8月 台風11号	298	913	14	899
20	平成29年 9月 台風18号	92	278	148	130

※管理開始（平成10年4月）以降の出水で、最大流入量大きい方から3番目までと今回を記載しています。

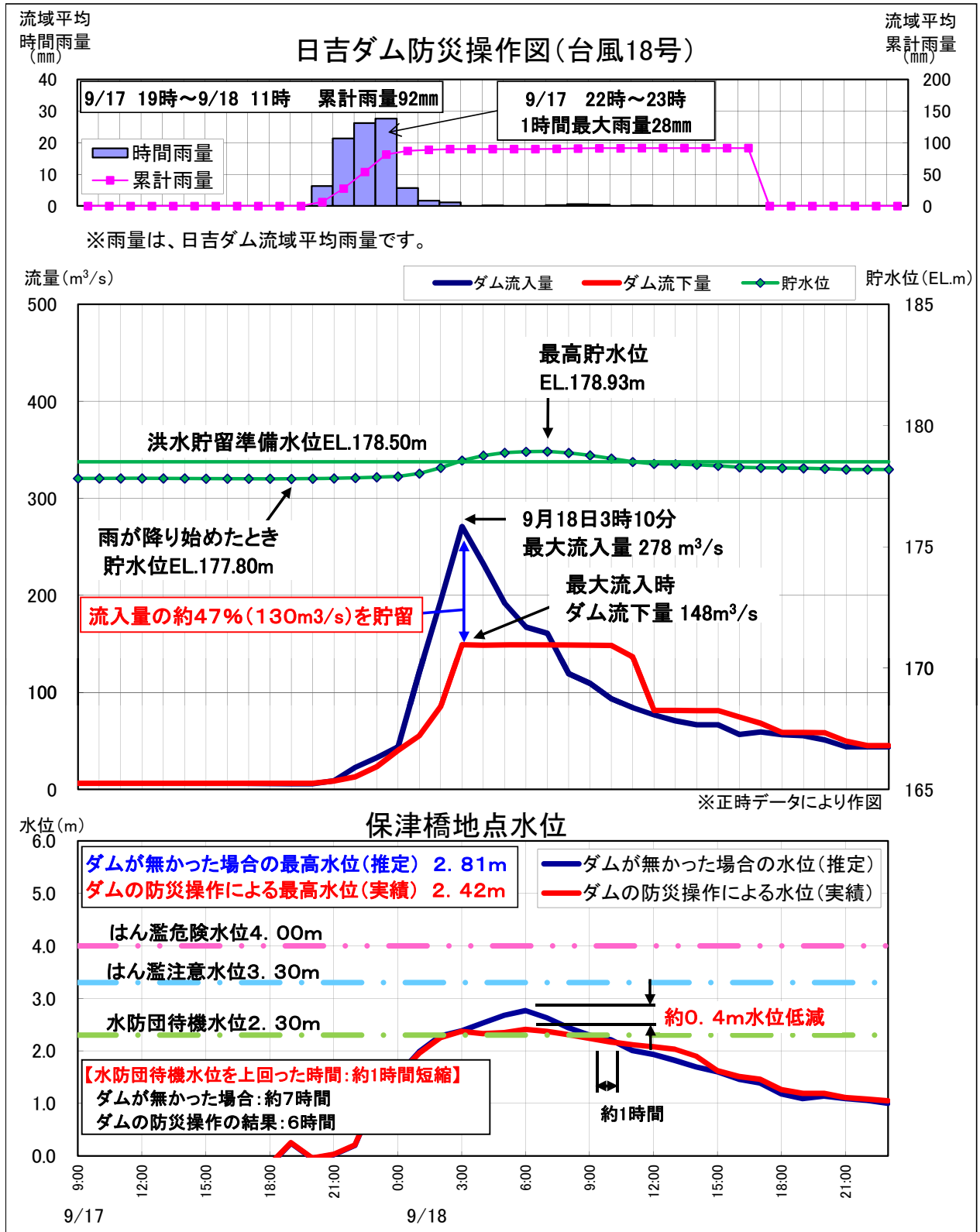
位置図



台風18号の降雨に対する日吉ダム防災操作について

資料2

・保津橋地点の水防団待機水位超過時間を短縮



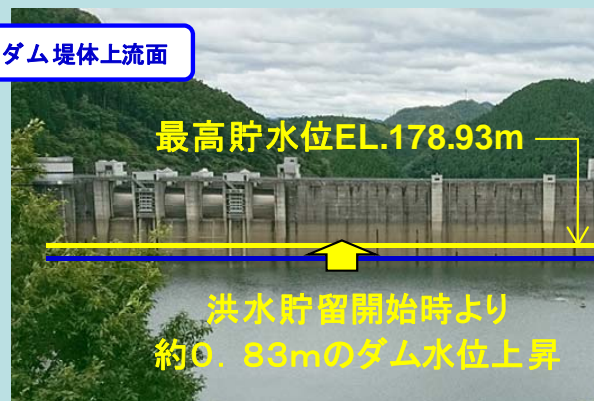
日吉ダム 洪水に対し防災操作を実施、保津橋地点の水防団待機水位超過時間を約1時間短縮

■台風18号の影響により、淀川水系桂川の日吉ダム流域では、1時間雨量で最大28mm、降り始めからの総雨量は92mmを観測しました。この降雨により、ダムへの最大流入量は毎秒278立方メートルを記録しました。

■日吉ダムは、最大流入時に約47%（毎秒130立方メートル）の水をダム貯水池に貯留しました。今回の防災操作により、京セラドーム大阪※約1.0杯分（117万立方メートル）に相当する水をダムに貯め込むことにより、ダム下流の保津橋地点（亀岡市保津町下中島地先）の河川水位を最大約0.4メートル低減し、水防団待機水位（2.30m）の超過時間を約1時間短縮したものと想定されます。（※京セラドーム大阪の容量を120万 m^3 として算出）

最大流入時に約47%の水をダムに貯留し、京セラドーム大阪約1.0杯分に相当する水をダムに貯め込み、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

ダム堤体上流面

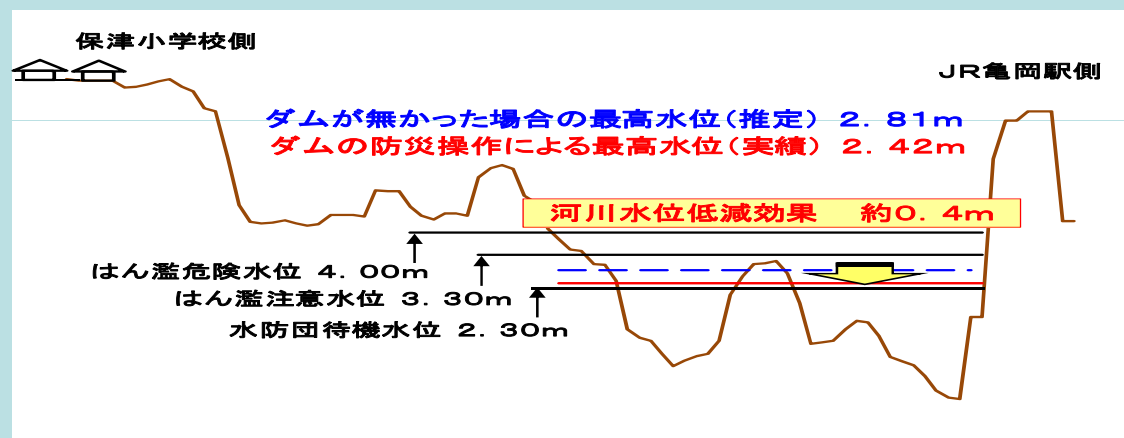


（平成29年9月17日9時50分撮影）



（平成29年9月18日7時50分撮影）

保津橋地点（保津川下り乗船場付近）での水位低減効果



※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。